

高校生による 中山間地域 わくわく 事業

中山間地域の次世代を担う高校生が、地域の活性化に向けた取組を行い、地域への愛着を深め、地域に貢献しようとする意欲を持つことにより、地域の次世代のリーダーとして活躍できるような人材を育成することを目的とした高校生による中山間地域わくわく事業。実施2年目の今年度は、昨年度策定した「高校生から始まる島の活性化！」というスローガンのもと、3年生の総合学習「リサーチⅢ」の時間に「大崎上島学」を設け、高校生が地域に出て活動しています。

今回は1年間の取組のまとめとなる成果発表会の様子を紹介します。

「大崎上島学」成果発表会

～若者が島の未来を語る～

日時：1月31日（火）14:00～

場所：大崎上島町役場本庁 2F会議室

各々の興味に応じて地域の課題を発見し、地域の方々と協働しながら解決策を考え、地域を元気にする提案の企画・実践を目指す「大崎上島学」。今年は8名の生徒が3つのグループに分かれ、プロジェクトを進めてきたところ、その成果を町へ披露する機会を頂きました。成果発表会には大崎上島町長をはじめ、大崎上島町教育長、広島県教育委員会より三浦指導主事、藤本総括指導主事、町議会議員、役場職員の方々、取組にご協力いただいた地域の方々など20名を超える参加があり、生徒に厳しくも温かい言葉をかけていただきました。ご参加いただいた皆様、また、取組に協力していただいた地域の皆様、ありがとうございました。



20名を超える方々に
ご参加いただきました。
ありがとうございました！



生徒の自己紹介。緊張しながらもしっかりとした口調で発表に対する意気込みを語ってくれました。



発表前の生徒は緊張した面持ちです。

歴史図鑑グループ

歴史図鑑グループは大崎上島の子どもたちが島の歴史に触れる機会が少なく、内容も難しい。このままでは島や祭りが衰退するという課題に対し、島の子どもたちが大崎上島に関する歴史を簡単に学べ、興味を持てるようにするにはどうすればよいか、という視点で資料館を訪ねたり、様々な方にインタビューを行ったりしてきました。その結果、①島の民話で絵本を作成する。②島の祭り図鑑を作成する。③中・高・商船が連携し祭り部を創設する。という解決策を考え、提案しました。



質疑の時間では、「島には大小たくさんの祭りがあるが、祭り図鑑ではどの祭りを取り上げるのか。」といった質問や、「伝える対象の発達段階に応じて民話をかみ砕くことが必要だが、本質的な部分の変更や、話者による創作、過大解釈は避けなければならない。」という意見を頂きました。生徒は「図鑑・絵本作成や民話伝承は想像以上に大変な作業で、やらなくてはいけないことがまだまだたくさんあるんだ。」とこれからの取組について話していました。

サイクリンググループ

サイクリンググループは大崎上島の観光客数が少なく、魅力がたくさんある島なのにあまり活かしきれていないのではないかという課題に対し、県、町職員で観光に詳しい方、大崎上島に来た観光客の方へインタビューを行ったり、実際に島を巡ったり、といった活動をしてきました。その結果、①高校生考案の観光ルートで観光客増加を狙う。②観光スポットへの行き方標識を設置する。③島のシンボルである神峰山の山道を整備する。という解決策を考え、提案しました。



質疑の時間では、「そもそもどうやって島外に大崎上島のアピールをするのか。」といった質問や、「高校生の強みを生かして SNS などを用いて広報する方法を模索してはどうか。」また、「旅行者は非日常を求めてくるが、島の高校生の日常こそが旅行者にとっての非日常となる。有名なスポットだけでなく、日常で気になったちょっといい景色を観光ルートに入れてみてはどうか。」という意見を頂きました。生徒は「自分たちが考えなかった様々な視点から意見を頂けた。まだまだできることはたくさんあるので、後輩にも引き継いでもらいたい。」と話していました。

郷土料理グループ

郷土料理グループは大崎上島には魅力的な特産品がたくさんあるのに、大崎上島とさえ言えばコレ！と言えるような料理がないという課題に対し、インタビューや、島の特産品を使った料理を試食、島の特産品を使った料理を試作する、といった活動をしてきました。その結果、島の特産品で①1年中食べられる、②手軽に食べられる、という理由からしいたけのカツを使った「海星バーガー」を開発。バーガーを通して島の魅力をアピールする。というアイデアを考え、実際に島のフリーマーケットや HOGALAKA 10 周年イベントなどで販売し、好評をいただきました。



郷土料理グループの発表後は実際に「海星バーガー」を振る舞いました。肉厚のしいたけを使った「海星バーガー」は大人気で、みなさん「おいしい！」とってくださいました。質疑の時間では、商品化に向けた原価や利益の問題に関して質問が飛び、生徒は「利益や原価のことはあまり考えていなかった。400円という値段は高いということもあり、実際に商品化するには越えなければいけない課題がある。」と前向きに語っていました。



3つのグループの発表の後は高田町長、三浦指導主事から講評をいただきました。高田町長からは課題解決の思考を大学生、社会人になっても大切に、考えることを続けてください、とアドバイスを頂きました。三浦指導主事からは、問題の可視化ができたことが良かった、実際に地域に出て本物を知ることや、人と人とのつながりによってとても良い学びになった、とお褒めの言葉を頂きました。

生徒はこの1年間、地域での取組や成果発表会を通して非常に多くのことを学びました。高校生の地域学習活動に協力いただいたり、成果発表の場を設けていただいたり、大崎上島には島全体で子どもたちを育てていこう、地域をよくしていこう、という熱意があふれています。そういった環境で育った生徒だからこそ、成長し、たくさんのことを学び、地域の担い手となって大崎上島の未来を創っていってほしいと思います。生徒たちの活動を応援していただいた皆様、ありがとうございます。